

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					
						目標年	工事費	進捗率					
下水道事業	109	磯部都市下水道	磯部町		<b>【全体事業概要】</b> 集水面積 64ha 幹線水路 1,268m(既設含) ホン 600×1基(既設) ホン 1350×1基(既設) ホン 1000×1基(増設) ホン 1350×1基(増設)	S53	4,771	21.4%	S53～S62年度に一旦整備が完了したが、その後の経年変化による全体計画の見直しを行ったところ、排水路及びポンプ施設の改築、拡充を図る必要が生じたことにより、再度事業に着手するものである。  当初全体計画に対する整備状況 ・管渠延長 972/972(m) 100% ・ポンプ能力 4.33/4.33(m3/s) 100% ホン 供用開始時期 600 S58.4 1350 S63.4 改定全体計画に対する整備状況 ・管渠延長 0/1,268(m) 0% ・ポンプ能力 4.33/10.13(m3/s) 43%	当初全体計画から25年余りが経過し、施設の一部は耐用年数を超過し改築の時期をむかえている。一方、周辺の土地利用形態も変化し、流域面積が増大し予想以上の市街化が進んでいる。また、現行の計画基準により見直しを行ったところ、最近の豪雨傾向により、住民の生命と財産を守る本事業に対し、住民の要望が強くなっている。	費用便益比 B/C=1.13 純便益 B-C=393.1百万 便益 B=3,439.3百万 費用 C=3,046.2百万  コスト縮減の可能性 既存施設の有効利用を図り、修繕で対応できるものは利用していく。  代替案の検討 集水区域を分割して新たな位置にポンプ場を増設する場合、市街地での新たな用地取得が非常に困難である。	平成17年度より測量設計より再度事業に着手し、まず最下流にあるポンプの整備を先行することにより、市街地浸水の危険性を低減する。その後順次排水路の整備を行い、H29年に事業を完了する予定。	集水域の変更理由、主たる溢水地点、調整池の機能、工事費の内訳（当初計画との比較が可能なもの）などの説明が不足であり、排水計画の妥当性を判断できなかった。したがって、これらを説明しうる資料の提出を待って再審議とする。
					H29	30	100.0%						

## 平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					
						目標年	用地費	進捗率					
下水道事業	110	御浜町特定環境保全公共下水道（阿田和处理区）	御浜町		【全体事業概要】 汚水事業 計画処理区域面積 79ha 計画処理人口 3,300人 計画汚水量 2,460m <sup>3</sup> /日最大 管渠延長 24.974km	H7	4,686	93.0%	汚水事業 平成12年10月に供用開始 整備区域面積79ha 整備人口3,300人 流入水量2,290m <sup>3</sup> /日最大 整備管渠延長24.974km	平成13年度に全管渠の整備を完了し、事業推進の障害となるような地元情勢、社会情勢の変化はなく、事業に対する住民の理解や協力も得られている。	費用便益費（B/C） 汚水1.42（合併） 管渠最小土被りの減少、マンホール間隔の見直しによる設置個数の減、再生材の利用等によりコストの縮減を図った。	公共用水域の水質保全のため、供用後の水洗化（下水道への接続）に対するさらなる普及啓発に努め、汚水量の増加に伴い、残る終末処理場の増設を行う。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、一層のコスト縮減に努めるとともに、具体的な縮減計画額を示されるよう求めるものである。
					H25	240	100.0%	【事業目的】 公共用水域の水質保全と生活環境の改善を図る。					

注：再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業